

科目 コード	31113	授業 科目	看護学原論 (Principle and Practice of Nursing)			担当 教員	○金城忍 高橋幸子	
開講年次	1年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	看護の目的論、対象論、方法論を学ぶ。すなわち、看護とは何か、人間はどのような存在か、どのように看護を展開するかについて、文献の読み取りや自己の体験を通して学ぶ。看護理論と看護実践との関係、主な看護理論の概要についても学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基幹概念を理解し、理解した内容を記述できる。(看護/人間/健康・疾病)</li> <li>2. 健康の観点から自己の生活を観察し、より健康な状態の実現に向けて取り組む姿勢をもつ。</li> <li>3. 看護における立場の変換について原理的な理解ができ、具体例で説明できる。</li> <li>4. 看護実践方法論について具体例とつなげながら理解し、理解した内容を記述できる。</li> <li>5. 看護の概念を自分の言葉で表現できる。</li> <li>6. 看護実践と理論の関係について理解し、理解した内容を記述できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	「看護学原論」導入：何をどのように学ぶか				事前 指定する	金城	講義	
第2回	看護の基幹概念を学ぶ(1)：病気とは、健康とは					〃		
第3回	看護の基幹概念を学ぶ(2)：看護とは					〃		
第4回	コミュニケーション技術「もう一人の自分」を働かせて人と関わる：看護のための認識論					〃		
第5回	『看護覚え書』からの読み取り(1)					〃		
第6回	『看護覚え書』からの読み取り(2)					〃		
第7回	『看護覚え書』からの読み取り(3)					〃		
第8回	健康の法則と生活：食と健康(1)					高橋		
第9回	生活過程(1)					金城		
第10回	健康の法則と生活：食と健康(2)					高橋		
第11回	生活過程(2)					金城		
第12回	実践方法論(1)：実践方法論対象に三重の関心を注ぎながら看護過程を展開する					〃		
第13回	実践方法論(2)					〃		
第14回	看護実践と看護理論					〃		
第15回	看護実践と看護理論、まとめ					〃		
テキスト	薄井坦子：科学的看護論、第3版<新装版>、日本看護協会出版会、2014年 F. ナイチンゲール(薄井坦子他訳)：看護覚え書、改訳第7版、現代社、2011年							
参考文献	初回授業の時に文献リストを配布する。							
他科目との 関連	「看護専門職論Ⅰ」および「早期体験実習」の学習内容と連動させながら学ぶ。							
成績評価 の方法	途中の課題(10点×5回=50点) 授業評価(2点×15回=30点) 最終レポート(20点)							
学習相談・ 助言体制	授業評価に記述された疑問に関しては次回授業で取り上げる。個別の相談は随時対応する。							
授業改善の 特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備 考	グループ学習を取り入れながら授業を展開する。							

科目コード	31125	授業科目	看護専門職論 I (Professional Nursing I)			担当教員	○宮城 恵子 嘉手苺英子 大湾明美 長堀智香子	
開講年次	1年次 前期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	講義	
選択必修	必須	時間数	15時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	大学で看護を学ぶ意味について考え、沖縄の看護の歴史と、本学の建学の精神、教育理念、教育目標を理解する。さらに、看護の歴史と専門職看護の概念と現状を概観し、人々の健康を守る社会的活動の中の看護職の役割と関連他職種との協働・連携について学ぶ。							
到達目標	1. 沖縄県立看護大学で看護を学ぶ意味について述べるができる。 (大学で看護を学ぶ意味、沖縄県の看護教育の歴史、本学の教育の特徴) 2. 看護という仕事の特徴について述べるができる。 (看護の概念、看護倫理、看護の対象、場の広がり) 3. 保健医療福祉活動の中の看護の役割と関連他職種との協働と連携について述べるができる。							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	大学で看護を学ぶということを本学の教育課程と教育目標をとおして理解する。				学生便覧 配布資料	嘉手苺	講義	
第2回	教育課程の編成(教養科目・専門教養科目・生涯発達看護科目・広域・基盤看護科目・統合科目)					宮 城	グループワーク	
第3回	第1回目の講義を踏まえて「グループワーク」をとおして考える。 看護の歴史、沖縄の看護の歴史から歴史のなかで看護について考える				配布資料	宮 城	講義	
第4回	看護とは 看護の対象の理解				テキスト 第1章 第4章	宮 城	講義	
第5回	看護の提供者、看護提供の仕組み				テキスト 第1章 第2章	宮 城	講義	
第6回	保健医療福祉活動における看護の役割と関連他職種との協働連携				テキスト 第4章 第6章	大 湾	DVD 講義	
第7回	広がる看護の看護活動① (国際保健看護)				資料配布	長 堀	講義	
第8回	広がる看護活動②(災害看護) 看護専門職と看護倫理				資料配付 テキスト 第5章	宮 城	講義 DVD	
テキスト	「系統学看護学講座、専門分野 看護学概論 基礎看護学①」: 医学書院 2014							
参考文献	適宜紹介する。							
他科目との関連	「看護学原論」の目的論、対象論と関連づけながら学ぶ。 「早期体験実習」で看護実践の場に臨み、関連付ける。							
成績評価の方法	授業参加状況(10%)、授業への参加状況(5%)、ミニテスト(15%)、試験(70%)							
学習相談助言体制	授業評価に記述された疑問に関しては、次回の授業で取り上げる。個別の相談は随時対応する。							
授業改善の特記事項	授業評価に記述された授業への要望等を必要に応じて取り入れていく。							
備考	なし							

科目 コード	31140	授業 科目	ヘルスアセスメント (Health Assessment)			担当 教員	○謝花小百合 上原和代 宮城裕子	神里みどり 山本真充 他
開講年次	2年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習	
選択必修	必修	時間数	45時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	個人の健康状態を全人的に理解するために必要なヘルスアセスメントの概念と枠組みを学ぶ。さらにフィジカルアセスメントに焦点をあて、フィジカルアセスメントに関する基本的な知識、技術と態度を学ぶとともに、ライフサイクル各期に特有の方法と留意点についても演習を通して具体的に学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>ヘルスアセスメントの意義と必要性について述べるができる。</li> <li>看護の対象となる人々を包括的にとらえるための概念枠組みについて説明できる。</li> <li>ヘルスアセスメントに必要な主観的・客観的に情報を収集できる。</li> <li>フィジカルアセスメントの技法を行うことができる。</li> <li>ライフサイクル各期で主に成人・老年に特有なアセスメントの方法について述べることができる。</li> <li>看護の対象となる人々に配慮した安全で安楽なアセスメント技法を行うことができる。</li> <li>アセスメントを行った際にその結果の正常や異常を判断する根拠について説明できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～3回	1. ヘルスアセスメントとその概念枠組みについて 2. 健康歴聴取と面接技術 3. 模擬患者を活用した情報収集とアセスメント				P. 1-P. 21 P. 23-P. 31 P. 33-P. 59	謝 花 神 里 上 原 山 本 宮 城 助 手 嘱 託 助 手	演 習	
第4～6回	4. 呼吸器系のアセスメント				P. 175-P. 184			
第7～9回	5. 循環器系のアセスメント				P. 185-P. 201			
第10～12回	6. 消化器系のアセスメント				P. 202-P. 217			
第13～15回	7. 系統的ヘルスアセスメント① (呼吸器から消化器系のアセスメント)							
第16～18回	8. 神経系のアセスメント 9. 筋・骨格系のアセスメント 高齢者のアセスメントの特徴				P. 127-P. 140 P. 160-P. 174 P. 141-P. 159 P. 82-P. 88			
第19～21回	10. 系統的ヘルスアセスメント②							
第22～23回	11. 系統的ヘルスアセスメント③ まとめ							
テキスト	「ヘルスアセスメント」南江堂 2010							

参考文献	<p>「フィジカルアセスメント完全ガイド」 Gakken  「フィジカルアセスメントガイドブック」 医学書院  「基礎がわかる！ 実践できる！ フィジカルアセスメント」 照林社  「ヘルス・フィジカルアセスメント」 上巻・下巻 日総研  「ベイツ診療法 Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition」  メディカル・サイエンス インターナショナル</p>
他科目との 関連	<p>人体の構造と機能、人体の構造と機能演習 I 等の既習科目の内容を統合し、生活援助・療養  援助技術実習などの科目へとつなげていけるようにする。</p>
成績評価 の方法	<p>授業参加状況5%、グループワークへの参加度10%、事前レポート20%（乳房アセスメントレ  ポート含）、毎回の授業終了後のレポート50%、最終レポート15%で評価を行う。</p>
学習相談・ 助言体制	<p>毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カー  ドの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。  オフィスアワー： 毎週 金曜日 5限目</p>
授業改善の 特記事項	<p>テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。授業内容と看護師および保健師国家試験  の過去問題との関連を伝達する。</p>
備考	<p>学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。  毎回の事前課題レポートは指定された日に提出する（ヘルスアセスメント演習ノート参  照）。  演習記録は、その日のうちにまとめて提出する（ヘルスアセスメント演習ノート参照）。  事前学習と前週の記録用紙は、講義前に返却するので、受け取ってから授業に臨むこと。</p>

科目 コード	31151	授業 科目	生活援助・療養援助技術 I (Fundamental Nursing Skills I)			担当 教員	○金城忍 宮里智子 上原和代 高橋幸子 山本真光	
開講年次	1年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	60時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	看護技術の本質と修得過程を理解し、看護技術の習得レベルを自己評価しつつ学習するプロセスを通して、看護技術に共通する基本技術である観察・コミュニケーション、感染予防(標準予防策、衛生的手洗い法)、食事、排泄、衣服の着脱、清潔、睡眠、移動など日常生活動作(ADL)に関する援助技術の原則と科学的方法について、‘理解し、できるレベル’で学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術とは何かを説明できる。</li> <li>2. 対象の立場に立って考えることができ、言語・非言語的コミュニケーションによって対象の気持ちに近づくことができる。看護者としての考えを伝え、双方向のコミュニケーションをとることができる。</li> <li>3. 標準予防策について説明でき、正確に、かつ適切なタイミングで衛生的手洗いを実施できるとともに、汚染を広げないという視点を身につけることができる。</li> <li>4. 技術の行動のポイントとその根拠をおさえ、正確に、かつ適切な時間内に「ベッド・メイキング」「環境整備」を実施できる。</li> <li>5. 正確にかつ適切な時間内でバイタルサイン測定を実施し、測定結果を基準値と比較して、記録・報告することができる。</li> <li>6. 技術の行動のポイントその根拠をおさえ、その人のもてる力をいかにしながら、正確に、かつ適切な時間内に「体位変換」「車いす移乗」「ストレッチャー移動」「良肢位」「抑制」「安楽な姿勢」「食事介助」「排泄介助」「寝衣交換」「全身清拭」「手浴・足浴」「陰部洗浄」を実施できる。</li> <li>7. 技術の行動のポイントとその根拠をおさえ、毎日の生活や学内演習で繰り返し使うことで、ひげそり、爪切りを身につけることができる。</li> <li>8. 子どもの日常生活の援助技術(移動、食事、清潔、更衣、排泄)が発達段階を考慮して安全・安楽に実施できる。</li> <li>9. 自己の看護技術の修得レベルを評価する視点を身につけ、学習課題を把握できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第 1 回	<p>【「 」は学習する基本技術。MはModuleの略を示す】</p> <p>オリエンテーション：生活援助・療養援助技術 I への導入と事前課題について</p> <p>M2・M3・M5：看護過程の成立と共通基本技術</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の日常生活行動に、人間の体のしくみと働きに関する知識を重ねて日常生活行動のプロセスを理解し、自己のセルフケア能力を高める。</li> <li>2. 自己学習にて技術のポイントとその根拠をおさえ、毎日の生活や学内演習で繰り返し使い身につけていく。</li> <li>3. 「記録・報告」 「ボディ・メカニクス」「ベッド・メイキング」</li> </ol>					金城(忍)	演 習	

第2・3回	「衛生的手洗い法」「口腔内清潔法」「観察技術（血圧・脈拍・呼吸・体温測定）」 * skill note の作成と技術修得 * 「移動技術の応用」個別ビデオチェック 子どもの日常生活に関する援助技術： 「安全」「移動（ベッドの種類, 抱っこ, バギー等）」 「食事（調乳・授乳等）」「清潔・衣生活（臀部浴, 衣服の着脱）」「排泄（おむつ交換）」	小児看護技術 P.161-229	上原 山本 宮里(暁)	
第4～6回	M2：看護過程の成立と共通基本技術： 「コミュニケーション技術」「バイタルサイン測定」 「学習成果発表」	事前学習課題のプリント M1-1～ M2-39	金城(忍) 宮里(智) 高橋 金城(里)	
第7～9回	M3：よい生活環境をととのえる： 「ベッド・メイキング」「病床環境を整える」 M4：感染を予防する： 「標準予防策」「手指清潔法」「処置用手袋の着脱」	M3-1～M3-7 M4-1～M4-9	〃	
第10～14回	M5：運動－休息のバランスを整える： 「床上移動」「体位変換」「車椅子移乗」 「良肢位」「抑制」「安楽な姿勢」	M5-1～M5-22	〃	
第15回	M6：清潔への援助 導入	M6-1～M6-17	〃	
第16～26回	M6：清潔への援助：「シーツ交換」「寝衣交換」「全身清拭」「陰部洗浄」「足浴・手浴」「口腔内清潔法」 「洗髪」「オムツ交換」「爪切り」「ひげそり」	〃	〃	
第27回	M7：食と排泄のバランスをととのえる 導入	M7-1～M7-17	〃	
第28～30回	M7：食と排泄のバランスをととのえる： 「便・尿器の与え方」「床上排泄の体験」「食事介助」 技術試験	〃	〃	
テキスト	「Module 方式による看護方法実習書<第3版>」：薄井坦子監修 現代社 2011 * 授業で資料を配布する。 小児看護技術：今野美紀、二宮啓子編：南江堂			
参考文献	1. 「ナースが視る人体」：薄井坦子 講談社 2003 2. 「ナースが視る病気」：薄井坦子 講談社 2006 3. ナーシンググラフィカ 小児看護技術：中野綾美編、メディカ出版 4. 小児看護技術：今野美紀、二宮啓子編：南江堂 *その他の文献については授業で文献リストを配布する。			
他科目との関連	人体の構造と機能、人体の構造と機能演習、微生物と免疫、栄養と代謝、看護専門職論Ⅰ、ヘルスアセスメント、生涯人間発達論、小児保健看護Ⅰ			
成績評価の方法	① 授業参加状況および授業への貢献 15% ②実習記録 25% ③モジュール毎に行う筆記試験 10% ④小児看護領域のテスト 10% ⑤技術の個別チェック（「寝衣・シーツ交換の応用」）40%			
学習相談・助言体制	毎回の授業終了後に、授業を通して理解が深まった点、身についたこと、疑問点や修得できなかった技術のポイント、授業に対する感想や要望などの内容の授業評価の提出を求め、次回授業に説明補充を行うことで理解をはかる。また、演習は5名1グループに分かれて行い、教員が2グループを受け持つため、学生の学習状況の把握と指導は、グループ担当教員が中心となって行う。			

授業改善の特記事項	毎回の授業終了後に授業評価の提出を求め、その内容を考慮して次回の授業展開を考える。
備 考	<p>&lt;演習の進め方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習は5名1グループに分かれて行い、教員が2グループを受け持つ。また、演習はグループ毎の計画に沿って行う。グループメンバー同士で互いに看護師役と患者役とを体験しつつ技術の修得過程をたどり、教師の個別指導（技術チェック）を通して技術の修得レベルを高める。</li> <li>・ 自己の日常生活行動に、人間の体のしくみと働きに関する知識を重ねて日常生活行動のプロセスを理解し、自己のセルフケア能力を高める。 自己学習にて技術のポイントとその根拠をおさえ、毎日の生活や学内演習で繰り返し使い身に付けていく</li> </ul> <p>&lt;小児の生活に関する援助技術演習について&gt; 事前にできるだけ身近なところで子どもと触れあったり、子どもの行動を観察し、演習に臨む。</p>

科目 コード	31152	授業 科目	生活援助・療養援助技術Ⅱ (Fundamental Nursing SkillsⅡ)			担当 教員	○宮里智子 金城忍 高橋幸子 他		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	生活援助・療養援助技術Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要	看護技術の修得レベルを自己評価しつつ学習するプロセスを通して、無菌操作、導尿、浣腸、経管栄養、看護過程展開の技術などの看護技術について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康障害をもち、一般的な治療を必要としている人への看護技術とは何か、を述べることができる。</li> <li>一般的な治療を必要としている人へ看護技術を適用していくなかで、コミュニケーションをとることができ、実施後の反応を記録・報告することができる。</li> <li>無菌操作の原則を理解し、「傷の手当ての介助」を正確に行うことができる。</li> <li>「導尿」、「浣腸」、「経管栄養法」を必要としている対象者の状況を述べることができる。</li> <li>「導尿」、「浣腸」、「経管栄養法」の行動のポイントとその根拠を述べることができる。</li> <li>モデル人形に「経管栄養法」を実施することができる。</li> <li>看護過程展開の技術を理解し、実施することができる。</li> <li>自己の看護技術の修得レベルを評価し、今後の学習課題を述べることができる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1・2回	【「」は学習する基本技術。MはModuleの略を示す】 生活援助・療養援助技術Ⅱの導入					配布資料	宮 里 金 城 高 橋 金 城	演 習	
第3・4回	M4：感染を予防する：「無菌操作」					M4-4～M4-8 配付資料			
第5・6回	M4：感染を予防する：「傷の手当ての介助」					M4-14～M4-15 配付資料			
第7・8回	M7：食と排泄のバランスをととのえる：「導尿」					M7-1～M7-5 配付資料			
第9・10回	M7：食と排泄のバランスをととのえる： 「導尿」・「浣腸」					M7-1～M7-5 配付資料			
第11～14回	M7：食と排泄のバランスをととのえる： 「経管栄養法」					M7-1～M7-5 配付資料			
第15回	M10：看護過程展開の技術：紙上事例①					M2-21～M2-22 M10-1～M10-10			
テキスト	「Module方式による看護方法実習書〈第3版〉」：薄井坦子監修 現代社 2004								
参考文献	「ナースが視る人体」：薄井坦子 講談社 2003 「ナースが視る病気」：薄井坦子 講談社 2006								
他科目との 関連	日本語表現法、身体活動論、人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ、微生物と免疫、人間関係論、看護学原論にて学んだ内容を踏まえて学習を深める。さらに生活援助・療養援助技術Ⅰにて修得した技術を学内演習で繰り返し使い、修得レベルを高める。								
成績評価 の方法	①授業参加状況および授業への貢献 20%、②実習記録 20%、③モジュール毎に行う筆記試験 20%、④技術の個別チェック 40%、で評価を行う								



学習相談・助言体制	毎回の授業終了時に、授業を通して理解が深まった点、身についたこと、疑問点や修得できなかった技術のポイント、授業に対する感想や要望、についてのアンケートを記入してもらい、次回の授業にてフィードバックを行う。
授業改善の特記事項	演習時間外での自己学習を行えるように実習室物品配置の提示や自己学習教材を完備する。さらにモジュール毎に、テキスト内容を補充する資料を配付する。
備考	<p>「生活援助・療養援助技術Ⅰ」に引き続き(自己学習- グループ学習- 個別指導- 自己評価)システムで学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎回ミニテストを行うので、事前学習を行って準備すること。</li> <li>● 演習時間は教員からの直接的指導を受ける機会である。よって演習に取り組む前にビデオを視聴する、教科書を確認するなどは、グループメンバー同士で時間外に取り組み授業に臨むこと。</li> <li>● 期末試験として個別チェックを実施する。</li> </ul>

科目コード	31153	授業科目	生活援助・療養援助技術Ⅲ (Fundamental Nursing SkillsⅢ)			担当教員	○宮里智子 金城忍 高橋幸子 他	
開講年次	3年次 前期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	演習	
選択必修	必修	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	生活援助・療養援助技術Ⅱ						
	その他	なし						
授業概要	看護技術の修得レベルを自己評価しつつ学習するプロセスを通して、診断・治療過程に伴う侵襲性の高い看護技術について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人への看護技術とは何か、を述べることができる。</li> <li>2. 診断・治療過程における看護者の役割について実施することができる。</li> <li>3. 診断・治療過程に伴う侵襲的な治療を必要としている人へ看護技術を適用していくなかで、コミュニケーションをとることができ、実施後の反応を記録・報告することができる。</li> <li>4. 「検査」、「与薬」を必要としている対象者の状況を述べることができる。</li> <li>5. 「採血」、「注射」、「点滴静脈内注射」の行動のポイントとその根拠を述べるができるとともに、無菌操作の原則を想起しながら、モデル人形に実施することができる。</li> <li>6. 「採血」、「注射」を正確に、かつ適切な時間内に実施することができる。</li> <li>7. 自己の看護技術の習得レベルを評価し、今後の学習課題を述べるができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態
第1～2回	【「 」は学習する基本技術。MはModuleの略を示す】 生活援助・療養援助技術Ⅲの導入					配布資料	宮 里 金 城 高 橋 金 城	演習
第3～12回	M4：感染を予防する：「無菌操作」					M4-4～M4-9		
	M8：診断過程と看護：「採血」					M8-1～M8-15		
第13～15回	M8：診断過程と看護：「注射」					M8-16		
	M8：診断過程と看護：「点滴静脈内注射」					M8-19～M8-21		
	M8：診断過程と看護：「散剤内服」					M8-22～M8-23		
						M8-17～M8-18		
テキスト	「Module 方式による看護方法実習書〈第3版〉」：薄井坦子監修 現代社 2004							
参考文献	「ナースが視る人体」：薄井坦子 講談社 2003 「ナースが視る病気」：薄井坦子 講談社 2006							
他科目との関連	生活援助・療養援助技術Ⅱにて関連する科目と、臨床薬理、病態生理、疾病論Ⅰ・Ⅱにて学んだ内容を踏まえて学習を深める。同時に専門関連科目の「保健看護Ⅰ」を踏まえて習得すべき看護技術を全ての対象に適用し得るようにイメージしながら技術修得に取り組む。							
成績評価の方法	①授業参加状況および授業への貢献20%、②実習記録20%、③モジュール毎に行う筆記試験20%、④技術の個別チェック40%、で評価を行う。							
学習相談・助言体制	毎回の授業終了時に、授業を通して理解が深まった点、身についたこと、疑問点や修得できなかった技術のポイント、授業に対する感想や要望、についてのアンケートを記入してもらい、次回の授業にてフィードバックを行う。							
授業改善の特記事項	演習時間外での自己学習を行えるように実習室物品配置の提示や自己学習教材を完備する。さらに各モジュールに、テキスト内容を補充する資料を配付する。							

備 考	<p>「生活援助・療養援助技術Ⅱ」に引き続き（自己学習- グループ学習- 個別指導- 自己評価）システムで学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 毎回ミニテストを行うので、事前学習を行って準備すること。</li> <li>● 演習時間は教員からの直接的指導を受ける機会である。よって演習に取り組む前にビデオを視聴する、教科書を確認するなどは、グループメンバー同士で時間外に取り組み授業に臨むこと。</li> <li>● 期末試験として個別チェックを実施する。</li> </ul>
-----	---

科目 コード	31160	授業 科目	生活援助・療養援助技術実習 (Fundamental Nursing Skills Practicum)			担当 教員	○金城忍 宮里智子 高橋幸子 他		
開講年次	2年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	90時間						
履修 条件	前提科目	看護学原論 ヘルスアセスメント 生活援助・療養援助技術Ⅱ							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	生活の場や療養の場において、看護の必要性を判断しながら、学習した生活援助技術や療養援助技術を安全かつ確実に実践、または見学し、評価する。このプロセスを通して、それぞれの生活援助技術・療養援助技術の目的、原理原則、具体的方法ならびに看護実践方法論について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職者を目指す学生としての責任を自覚し、看護学生にふさわしい態度で行動することができる。</li> <li>2. 療養生活を送っている患者や家族の尊厳を守りながら関わるすることができる。</li> <li>3. 受け持ち患者の全体像を描き、看護の必要性を把握することができる。</li> <li>4. 受け持ち患者の療養生活に関する援助の必要性を道筋を立てて考え、対象の持てる力を発揮する方向で看護計画を立案することができる。</li> <li>5. 対象の反応を見定めながら、看護計画に沿って実施することができる。</li> <li>6. 実施した看護を対象の位置から評価することができる。</li> <li>7. 受け持ち患者を支えている保健医療福祉等の関係職種間の連携・調整について説明することができる。</li> <li>8. 自己の看護実践を振り返り、今後の学習課題を明確にすることができる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
1日目 ) 4日目 ) 7日目 以降	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習指導教員や病棟の看護師から指導を受けながら、病棟や実習の進め方に慣れる。</li> <li>2. 患者をひとり受け持って、病棟の看護師や実習指導教員の行うケアに参加しながら、受持ち患者への関心を寄せていく。</li> <li>3. 受持ち患者について得られた情報から患者の全体像を大づかみに描き、情報を得つつ描いた全体像を修正していく。</li> <li>4. 実習初日から実習3日目までは、看護師や実習指導教員の行う受持ち患者への看護に参加しながら患者の全体像を修正し、その時々気持ちを感じ取りつつ、日常生活の自立の程度や行われている治療や看護の様子を把握していく。</li> <li>5. 実習4日目からは、受持ち患者への看護ケア計画を立てて実習に臨み、当日の朝、担当看護師や実習指導教員と調整する。ケアを行っていく中で、受持ち患者の看護の必要性を把握していく。</li> <li>6. 実習7日目の終了時には、受持ち患者に必要な看護を筋道を立てて考え、看護計画を立てる。</li> <li>7. その翌日から受持ち患者の看護目標に沿って、その日の行動計画を立てて実習に臨めるようにする。朝、患者の状態を確認し、必要に応じて行動計画を修正する。担当看護師との調整を経て実施し、対象の反応から自分の行った看護を評価する。ケアの実施に際しては状況に合わせて手段を選択し、自己の能力を判断しながら指導者の援助を求める。実施した看護について、担当看護師や実習指導教員に報告を行う。</li> </ol>							金城（忍） 宮 里 高 橋 金城（里） 他	
テキスト	看護学原論および生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト								

参考文献	「ナースが視る人体」：薄井坦子 講談社 2003 「ナースが視る病気」：薄井坦子 講談社 2006
他科目との 関連	生活援助・療養援助技術Ⅱにて関連する科目や、専門関連科目の「保健看護Ⅰ」を踏まえて受け持ち患者の看護の必要性を明確にし、看護計画を立案し、実際に看護を展開していく。
成績評価 の方法	倫理的な姿勢（到達目標1～到達目標2：32%）、本実習に特化した実習目標（到達目標3～到達目標6：60%）、関係職種との関係性（到達目標7：4%）、および今後の学習課題（到達目標8：4%）によって評価する。 実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。
学習相談・ 助言体制	実習前には学内にて実習に対する疑問点の相談を受ける。実習期間中は実習指導教員のみならず、基礎看護教員からのサポートも行う。
授業改善の 特記事項	実習では「生活援助・療養援助技術Ⅰ」、「生活援助・療養援助技術Ⅱ」で用いたテキストや資料を活用しながら、理論と実践をつなげていけるように指導していく。
備考	なし

科目 コード	31171	授業 科目	クリティカル・緩和ケア論 (Critical/Palliative care)			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 赤嶺伊都子 佐久川政吉 宮城裕子				
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目		授業 形態	講 義			
選択必修	必 修	時間数	30時間	分類							
履 修 条 件	前提科目	なし									
	その他	なし									
授業概要	化学療法、放射線療法および移植・手術療法など侵襲性の高い治療を受ける人々の看護、重症期・終末期の看護と緩和ケア、ならびに災害看護・救急看護の看護について、看護師の役割、チーム医療、ならびに看護の原則や方法について基本的な知識を学習する。看護の対象となる人々には子どもから高齢者まで含まれる。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急における看護ケアについて説明できる。</li> <li>2. 周手術期における看護ケアについて説明できる。</li> <li>3. 化学療法、放射線療法時の看護ケアについて説明できる。</li> <li>4. 災害時における看護ケアについて説明できる。</li> <li>5. 苦痛症状を伴う人々の緩和ケア、終末期における看護ケアについて説明できる。</li> </ol>										
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態			
第1・2回	<第1～8回：救急・周手術期・災害時における看護ケア> 救急時における看護ケア (集中治療下での看護) (救急患者の家族に対する看護)					1)P. 25-78, P. 91-108 P. 113-119	神 里 赤 嶺 謝 花 佐久川 宮 城	講 義			
第3～5回	手術療法を受ける患者の看護ケア (呼吸器系、消化代謝器官、運動器および性・生殖器に障害のある人の手術など)					2)P. 13-109 P. 111-122 P. 151-178					
第6回	化学療法を受ける患者の看護ケア					P. 213-220					
第7回	放射線療法を受ける患者の看護ケア					P. 234-246					
第8回	災害時における看護ケア										
第9回	<第9～15回：緩和ケア、終末期における患者・家族ケア> 緩和ケアの概念					3)P. 11- 42					
第10回	終末期における患者のステージとケア					P. 205-226					
第11回	終末期における倫理的問題					P. 241-254					
第12回	身体的苦痛症状の看護ケア (がん性疼痛、倦怠感、呼吸困難など)					P. 43-124					
第13回	心理社会的苦痛症状の看護ケア (スピリチュアルケアなど)					P. 125-154 P. 155-164					
第14回	症状緩和のための補完代替療法					P. 70- 72					
第15回	家族・遺族への看護ケア					P. 227-240					
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護」 南江堂 2010</li> <li>2)「成人看護学 周手術期看護」メディカ出版 2013</li> <li>3)「緩和ケア」メディカ出版 2013</li> </ol>										

参考文献	「急性期看護論」NOUVELLE HIROKAWA 2005 「周手術期看護論」NOUVELLE HIROKAWA 2005 「緩和・ターミナルケア看護論」NOUVELLE HIROKAWA 2005 「緩和ケア」医学書院 2007 「災害看護」南江堂 2010
他科目との 関連	病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱの関連科目の内容を踏まえて学習を深める。
成績評価 の方法	授業参加状況（10%）、事前課題レポート・講義時に提示する課題レポート（40%）、テスト（50%）で評価を行う。
学習相談・ 助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。 オフィスアワー：毎週 火曜日 3限目
授業改善の 特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配布する。授業内容と保健師国家試験の過去問題との関連を伝達する。
備 考	学生は次回使用のテキスト箇所および資料内容を読み、準備して授業に臨む。 事前課題レポートを指定された日に提出する。

科目コード	31172	授業科目	クリティカル・緩和ケア演習 (Critical/Palliative care Seminar)		担当 教員	○謝花小百合 赤嶺伊都子 宮城裕子 神里みどり 他		
開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修条件	前提科目	生活援助・療養援助技術実習 生活援助・療養援助技術Ⅲ クリティカル・緩和ケア論						
	その他	なし						
授業概要	化学療法、放射線療法および移植・手術療法など侵襲性の高い治療を受ける人々の看護、重症期・終末期の看護と緩和ケア、ならびに災害看護・救急看護の看護について、看護師の役割、チーム医療、ならびに看護の原則や方法について、演習を通して技術、態度を学習する。看護の対象となる人々には子どもから高齢者まで含まれる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性状況下にある患者への基本的な看護援助技術を習得できる。</li> <li>集中治療を必要とする患者への基本的な看護援助技術を習得できる。</li> <li>周手術期にある患者への基本的な看護援助技術を習得できる。</li> <li>がん治療に伴う侵襲性の高い治療（化学療法、放射線療法）を受ける人々への基本的な看護援助方法を習得できる。</li> <li>終末期にある人々の苦痛症状への緩和ケアおよび看護援助技術を習得できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～3回	1. ICU看護 1)モニタリング（呼吸、循環、代謝、意識障害）、 2)心電図モニター				事前課題は演習開始前に提示する。 事後課題は演習時に提示する	神 里 赤 嶺 謝 花 宮 城 他	演 習	
第4～6回	2. 救急、災害・緊急時の看護 1)小児及び成人のBLS/ALS 2)災害時の看護							
第7～9回	3. 周手術期の看護 1)術後の観察と管理 ①全身の観察、②ドレナージの管理							
第10回	4. 化学療法、放射線治療中の看護 1)主に副作用管理について							
第11～13回	5. 事例を用いての看護過程演習 1)周手術期にある患者							
第14・15回	6. 終末期の看護 1)補完代替療法演習 2)死後のケア 3)家族ケア（グループディスカッション）							
テキスト	クリティカル・緩和ケア論で使用したテキストおよび講義資料 パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイドⅠ 急性期・周手術期、照林社 パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイドⅡ 慢性期・回復期・終末期、照林社 その他、各演習時にプリント配布							
参考文献	成人看護技術Ⅱ H. 急性期にある患者の看護技術、廣川書店 パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイドⅠ 急性期・周手術期、照林社 成人看護学 成人看護技術、 南江堂							
他科目との関連	病態生理、疾病論Ⅰ、疾病論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、クリティカル・緩和ケア論の関連科目の内容を踏まえて学習を深める。							
成績評価の方法	授業参加状況(10%)、事前課題・演習後のレポート・技術・ロールプレイ等(90%)とし総合的に評価する。							
学習相談・助言体制	毎回の授業の終了時に、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を記載した出席カードの提出をもとめ、次回授業時に説明補充、意見交換等で理解を図る。							



授業改善の特記事項	説明する資料を配布する。 学生は次回資料内容を読み、準備して授業に臨む。
備考	毎回の事前課題レポートを指定された日に提出すること。 演習後のレポートは指定された日時までに提出すること。 自己学習を含め主体的に演習に望むことが必要である。

科目 コード	31180	授業 科目	クリティカル・緩和ケア実習 (Critical/Palliative care Practicum)			担当 教員	○謝花小百合 赤嶺伊都子 宮城裕子 神里みどり 他		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	90時間	分類					
履 修 条 件	前提科目	クリティカル・緩和ケア演習							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していないものは、実習を履修することができない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	侵襲性の高い治療または緩和ケアの必要な人々を対象とした臨地実習を通して、対象の健康/疾病ニーズ、生理学的ニーズ、心理社会的ニーズに焦点をあてて、多様な場で提供されるケアに必要な理論的、臨床的基本、ならびに技術・態度について学習する。								
到達目標	1) 患者の人権を尊重した態度でかかわり、援助することができる。 2) 手術療法を受ける患者の健康障害の病態像、治療法について述べることができる。 3) 手術療法を受ける患者の状態について身体的・心理的・社会的側面から情報収集を行い、情報を統合してアセスメントし、患者のもつ問題を明らかにすることができる。 4) 手術療法を受ける患者の個別性を考慮し、看護計画の立案・実施・評価ができる。 5) 術前の心身の準備に必要な援助を行うことができる。 6) 術後の疼痛や身体的苦痛の緩和を図ることができる。 7) 手術侵襲に伴う合併症を予防し、術後回復に必要な援助を行うことができる。 8) がん患者に行われている看護を説明できる。 9) 集中治療を受けている患者の呼吸・循環・代謝を整えるための看護を説明できる。 10) 終末期にある患者の全人的苦痛を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルの側面から総合的に理解し、症状緩和ケア、家族・遺族に必要な看護を説明できる。 11) 関係職種間の連携について理解し、チーム医療における看護の役割について述べるができる。 12) 実践したことを振り返り、自己の学習課題を見いだすことができる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画							指導教員	
前週の演習 実習初日	実習内容 1) 手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護(手術室看護を含む) 2) がん患者の看護(薬物療法、緩和ケア) 3) 集中治療を必要とする患者の看護 4) 終末期にある患者の看護  実習の進め方 1) 治療環境での看護実習オリエンテーション (1) 大学内で前の週の演習時に実習指導教員が行う。 (2) 実習場所の特殊性に関しては、実習初日に各病棟の看護師長が行う。 ①外科系病棟 } 学生 ②ICU・HCU } 2～6名 ③緩和ケア病棟・ホスピス病棟 } 編成							神 里 赤 嶺 謝 花 宮 城 他	
1～2週目	2) 病棟実習(手術室含む) 入院中の周手術期患者を受け持ち、看護過程を展開する。 3) ICU 実習 (半日見学実習) 4) 緩和ケア病棟・ホスピス病棟 実習 (1日間) 5) 実習報告会								
2週目後半	(1) 病棟報告会(病棟実習最終日に各病棟で実習指導者を交えて報告しあう)								

テキスト	クリティカル・緩和ケア実習 実習の手引き
参考文献	「成人看護学 周手術期看護」メディカ出版 2013 「成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護 南江堂 2010 「緩和ケア」メディカ出版 2013
他科目との 関連	看護活動を実施できる基礎的知識、技術および倫理的態度を学習するために、病態生理、疾病論Ⅰ、ヘルスアセスメント、生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助技術実習、クリティカル・緩和ケア論、クリティカル・緩和ケア演習等の既習科目や実習の内容を統合している。
成績評価 の方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	実習では毎日のカンファレンスでグループごとに振り返りを行い、各自の学んだことについて発表しグループ全体で共有し、理解できなかった事項、疑問に感じた事項等を全員で考え、翌日の実習展開をスムーズに行うように指導助言していく。
授業改善の 特記事項	実習指導上の問題は、早期に現場の師長や指導者と話し合い、双方が協力体制を構築し取り組む
備考	実習に望むにあたり、実習の手引き（クリティカル・緩和ケア実習）の実習内容をよく読み、事前学習して望むこと。

科目コード	31133	授業科目	早期体験実習 (Early Exposure to Clinical Practice)			担当 教員	○宮城恵子 准教授以上の看護系教員	
開講年次	1年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	看護実践の場または地域において、看護職者の仕事を観察し、自由に対話する中から、また、看護を必要としている人々やその他の医療従事者・関連職種との対話から、さらに学生同士の討論や役割モデルとなる看護職者の講演などを通して、看護という職業の意義や社会における期待、必要性、そして今後の職業的準備のあり方について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モデルとなる看護職者と自分の職業選択を比較し、自分のキャリア発達について考察できる。</li> <li>2. 看護職が働く様々な場において、看護職が果たしている役割について記述できる。</li> <li>3. 看護という職業の意義や社会における期待について記述できる。</li> <li>4. 看護を担っていく人に求められる能力について考え、それについて記述できる。</li> <li>5. 看護の難しさや素晴らしさを感じ取り、それについて記述できる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	
5日間	各自の実習指導者について実習を行う。 日程および実習の展開は実習施設や実習指導者によって異なる。詳細については、実習施設・実習指導者毎の「実習の手引き」に示す。 6月18日(水)・19日(木)・20日(金)・27日(金) 7月4日(金)・11日(金)のうちの4日間：現場での実習 7月18日(金)：学内にて報告会					「実習の手引き」による	宮 城 他	
テキスト	指定なし							
参考文献	「看護専門職論Ⅰ」の講義資料							
他科目との 関連	「看護専門職論Ⅰ」で学習した内容を元に実習を行う。 「看護学原論」では本実習科目で学習した内容を含めてまとめを行う。							
成績評価 の方法	実習への参加状況・姿勢 (40%) 実習課題レポート (60%) (注：実習への参加状況には実習オリエンテーションへの出席も含む)							
学習相談・ 助言体制	約10名に一人の教員が実習担当教員として指導にあたり、相談窓口にもなる。実習先では実習指導者が指導を行う。実習中の指導体制については別途提示する。							
授業改善の 特記事項	学内報告会の方法							
備 考	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 実習に先立ち実習オリエンテーションを行う。</li> <li>② 実習施設・実習指導者毎の実習展開は「実習の手引き」を参照すること。</li> <li>③ 実習先が離島の場合の日程は、実習指導者と調整して上記実習期間中に設定する。</li> </ol>							

科目コード	36124	授業科目	精神保健看護 I (Mental health and Psychiatric Nursing I)			担当 教員	○藤野裕子 大島泰子		
開講年次	2年次 前期	単位数	1 単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必修	時間数	15 時間						
条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	心の発達や精神の健康及び不健康についてライフサイクルや社会生活の面から理解し、心の健康を保持増進するための精神保健について学習する。また、精神看護の歴史的変遷、役割と機能など精神看護の基本について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>心の発達や精神の健康・不健康について、ライフサイクルや社会生活面から記述できる。</li> <li>精神力動的な考え方やストレスとマネジメントについて説明できる。</li> <li>生活の場における精神保健上の問題とその援助方法について述べるができる。</li> <li>さまざまな身体的状態において生じる心の健康問題について記述できる。</li> <li>リエゾン精神医学・看護について理解し、病院内および病院外の施設との連携の重要性について関連づけることができる。</li> <li>地域精神保健活動の意義および制度等について記述できる。</li> <li>欧米や沖縄を含む日本における精神保健福祉の沿革と歴史について述べるができる。</li> <li>精神看護の役割や機能、倫理など精神看護の基本について記述できる。</li> </ol>								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	心の健康と不健康				*1 レポート	藤 野	講義		
第2回	現代の精神保健 ストレスマネジメント					〃			
第3回	生活の場と精神保健				*2 レポート	〃			
第4回	ライフサイクルと精神保健					〃			
第5回	社会とメンタルヘルス					〃			
第6回	リエゾン精神医学・精神看護					大 島			
第7回	地域精神保健活動					藤 野			
第8回	精神保健医療福祉の沿革・歴史				*3 レポート	〃			
テキスト	ヌーヴェル ヒロカワ 精神看護学 I 精神保健学 第5版								
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>① メジカルフレンド社 新体系看護学 34 精神看護学 1 (精神保健学概論 精神保健)</li> <li>② 厚生統計協会 国民衛生の動向</li> <li>③ 精神保健福祉研究会 我が国の精神保健福祉</li> </ol>								
他科目との 関連	①沖縄の生活と文化 ②家族社会学演習、③心理学、④ストレスマネジメントと健康教育 ⑤人間関係論、⑥生涯人間発達論の内容を踏まえて学びを深める。								
成績評価 の方法	授業への参加・レポート・小テスト (20%)、および期末試験 (80%) で評価を行う。								
学習相談・ 助言体制	講義の途中、あるいは講義終了時に質疑等を受ける。								
授業改善の 特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配付する。授業内容と国家試験の過去問題との関連を考慮に入れ講義を進める。								
備 考	事前にテキストの該当ページを読んで授業に参加すること。 講義前及び後にレポート課題を掲示する。								

科目コード	36133	授業科目	精神保健看護実習 I (Mental Health and Psychiatric Nursing Practicum I)			担当 教員	○大川嶺子 藤野裕子 大島泰子 他	
開講年次	2年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修条件	前提科目	精神保健看護 I						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
科目概要	精神保健上の問題（ストレス、心理社会的健康問題、ハンディキャップなど）を抱えながら地域で生活している対象との関わりを通して、様々な環境に影響されながら生活している対象について理解し、支援方法について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害をもつ対象の人格を尊重した関わりができる。</li> <li>2. 社会復帰を目指した対象への関わりをとおして対象の健康な側面について記述できる</li> <li>3. 精神保健上の問題が、対象の身体・行動・対人関係などにどのように現れているかを捉え、記述できる。</li> <li>4. 対象者との関わりを通して、社会復帰を目指した訓練の場における対象のニーズを捉え、援助の必要性について記述できる。</li> <li>5. 社会復帰を目指した対象への様々な支援やサポートシステムについて理解を深め、その中から看護の必要性を見出すことができる。</li> <li>6. 実践したことを振り返り、自己の課題を見出すことができる。</li> </ol>							
日 数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設日課への参加をとおして、精神保健上の問題を抱えた対象の社会復帰に向けた活動について学ぶ。</li> <li>2. 対象の観察およびコミュニケーションをとおして、対象の生活や療養の状況について学ぶ。</li> <li>3. カンファレンスをとおして、対象の生活背景や地域における種々のサポートについて学ぶ</li> </ol> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の早い時期に施設職員のオリエンテーションを受ける。</li> <li>2. 受け持ちは特に定めず、複数の対象とかかわりを持つ。</li> <li>3. 実習指導教員および施設実習指導者と連携をとりながら実習を行う。</li> <li>4. 対象と共に施設日課に参加して、対象の生活の健康な側面や精神保健上の問題が現れている側面を、観察とコミュニケーションをとおして捉える。</li> <li>5. 日々の実習終了時に学生、実習指導教員、施設実習指導者等による 1 時間程度のカンファレンスを持ち、対象の生活背景や療養状況、および対象が得ているサポートについて学ぶ。</li> <li>6. 対象の状況および対象が得ているサポートから、対象のニーズを満たす看護の必要性について考察できる。</li> <li>7. 実習内容および学びを所定の日々の記録用紙に記載し、実習指導教員および施設実習指導者に提出する。</li> <li>8. 各々の施設において、学生、実習指導教員、施設実習指導者等による実習報告会を行う。</li> <li>9. 実習最終日に、学内において実習総括を行う。</li> <li>10. 実習終了後、総括レポートを提出する。</li> </ol>						藤 野 大 川 大 島 仲 本 他	

テキスト	2年次後期の「実習の手引き（精神保健看護実習Ⅰ）」
参考文献	精神保健看護Ⅰ、精神保健看護Ⅱに使用したテキストおよび講義資料
他科目との 関連	精神保健看護Ⅰ、心理学、人間関係論、臨床心理、疾病論Ⅱ
成績評価 の方法	施設実習指導者・実習指導教員の情報等を参考に、授業参加状況・実習態度・カンファレンスへの参加状況（30%）、実習記録・レポート等の諸記録（70%）で、科目担当教員が総合的に評価する。さらに実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。
学習相談・ 助言体制	各グループの実習担当教員が随時相談を受け、助言を行う。学生は、積極的に実習に参加し、疑問等がある場合はその都度実習担当教員へ相談する。
授業改善の 特記事項	4施設に分かれて実習を行うため、最終日には各グループが実習での体験を報告し合い、学びの共有を行う。
備 考	実習施設は、施設利用者のリハビリの場であることを念頭に置き、報告・連絡・相談を密にして、責任を持って実習に参加すること。

科目 コード	36125	授業 科目	精神保健看護Ⅱ (Mental Health and Psychiatric NursingⅡ)			担当 教員	○ 大川嶺子 大島泰子		
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	精神保健看護Ⅰ、精神保健看護実習Ⅰ							
	その他	なし							
授業概要	主な精神疾患とそれらの病因、症状、検査、診断、治療および看護について学習する。								
到達目標	1. 主な精神疾患とそれらの病因、症状、検査、診断、治療について記述できる。 2. 精神看護の考え方、精神を病む人の理解と基本的対応について理解を深め、記述できる。 3. 精神科のリスクマネジメントの要点を理解し、説明することができる。 4. 精神看護に用いる理論・モデルについて概要を記述できる。 5. 主な精神症状のアセスメントと看護を学習し、具体的な看護について記述できる。								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1・2回	精神看護の考え方 精神を病む人の理解と対応				*1 疾病論Ⅱ・臨床 薬理該当箇所 の復習(事前)  *2 1つ選択して特 徴と看護につ いてレポート 作成 (事 後)	大川・大島	講義		
第3回	精神看護の倫理・リスクマネジメント・司法精神看護								
第4回	精神看護に用いる理論・モデル 人間関係の看護論・セルフケア理論								
第5回	精神を病む人への看護援助の基本								
～	身体機能のアセスメント								
第7回	精神機能のアセスメント セルフケア能力のアセスメント 環境のアセスメント								
第8回	精神疾患の理解 *1								
～	統合失調症								
第10回	気分(感情)障害 器質性精神障害・神経症性障害等 パーソナリティおよび行動の障害・ 知的障害・発達障害等								
第11回	精神症状・状態像・障害の理解と看護 *2								
～	症状・状態像の理解と看護								
第13回	不眠 不安 興奮 強迫行為 拒絶 操作 引きこもり せん妄 攻撃的行動 自殺・自傷 抑うつ状態 躁状態 依存状態 意欲減退状態 幻覚・妄想状態 障害の理解と看護 解離性障害 摂食行動の障害 パニック障害 その他								
第14回	児童・思春期・青年期								
第15回	身体合併症 まとめ								
テキスト	ヌーヴェル ヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第5版								
参考文献	①メジカルフレンド社 新体系看護学 34・35 精神看護学①② 精神看護概論・精神保健 ②ヌーヴェル ヒロカワ 精神看護学Ⅰ 精神保健学 ③講義中に提示します。								



他科目との 関連	①人間関係論 ②臨床心理 ③疾病論Ⅱ ④臨床薬理
成績評価の 方法	①授業への参加状況・レポート・小テスト（20%）、②期末試験（80%）で評価を行う。
学習相談・ 助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了時にしばらく教室に残り質問を受ける。</li> <li>・原則として講義日の午後4・5限目は、オフィスアワーとする。</li> </ul>
授業改善の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト内容を補充・説明する資料を配付する。授業内容と国家試験の過去問題との関連を考慮に入れ講義を進める。</li> </ul>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に講義へ参加し、学んだことを自身の実生活にも反映させて欲しい。</li> <li>・テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。</li> </ul>

科目コード	36126	授業科目	精神保健看護演習 (Mental Health and Psychiatric Nursing Seminar)			担当教員	○大川嶺子 大島泰子 他		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	演習		
選択必修	必修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	精神保健看護実習Ⅰ 精神保健看護Ⅱ							
	その他	なし							
授業概要	急性期及び慢性期、リハビリ期の精神科看護に必要な技術、および精神科における看護過程を展開する方法について学習する。また、実習の対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者や精神的な健康問題を持つ人への看護に必要な知識と技術について記述できる。</li> <li>2. 急性期及び慢性期、リハビリ期の基本的な精神科看護について記述できる。</li> <li>3. 精神科看護における看護過程について記述できる。</li> <li>4. 実習対象の権利を守るために、最低限必要な知識、技術および態度について述べること</li> </ol>								
授業回数	授業内容及び計画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1・2回	演習・実習への導入 関わりの技術-コミュニケーション *1 プロセスレコード例の検討①				*1 事前課題 の事例使用	大川 大島 仲本 他	演習		
第3回	精神科における治療環境 *2 法的整備・病院環境・入院形態・人権保護等								
第4回	精神症状の評価 *2				*2 映像資料・ 文献資料使用 しレポート作 成(事後)				
第5・6回	精神保健看護における看護過程展開 *3 うつ病患者の看護計画を例に								
第7～9回	統合失調症患者の看護計画Ⅰ(急性期) *3				*3 看護過程 に沿って順次 課題提出				
第10回	関わりの技術-コミュニケーション プロセスレコード例の検討②								
第11～13回	統合失調症患者の看護計画Ⅱ(慢性期) *3								
第14・15回	看護計画場面のロールプレイと評価								
テキスト	ヌーヴェル ヒロカワ 精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第5版								
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>① ヌーヴェル ヒロカワ 精神看護学Ⅰ 精神保健学 第5版</li> <li>② メジカルフレンド社 新体系看護学35 精神看護学②(精神障害を持つ人の看護)</li> </ol>								
他科目との関連	①臨床薬理、②疾病論Ⅱ、③生涯人間発達論、④人間関係論の内容を踏まえて学びを深める。								
成績評価の方法	①授業への参加状況・レポート・小テスト(20%) ②期末試験(80%)で評価を行う。								
学習相談・助言体制	演習中は担当教員が常時質問を受ける体制をとり、演習課題はその都度担当教員に提出して確認を受ける。								
授業改善の特記事項	テキスト内容を補充・説明する資料を配付する。授業内容と国家試験問題との関連を考慮に入れ講義を進める。								
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題として関連科目内容のレポートを課す。</li> <li>・関連科目の授業資料、テキスト等を参考にすること。</li> <li>・積極的に参加し、他の実習及び自身の実生活にも学びを反映させてほしい。</li> </ul>								

他科目との 関連	①人間関係論 ②臨床心理 ③疾病論Ⅱ ④臨床薬理
成績評価の 方法	①授業への参加状況・レポート・小テスト（20%）、②期末試験（80%）で評価を行う。
学習相談・ 助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義終了時にしばらく教室に残り質疑を受ける。</li> <li>・原則として講義日の午後4・5限目は、オフィスアワーとする。</li> </ul>
授業改善の 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト内容を補充・説明する資料を配付する。授業内容と国家試験の過去問題との関連を考慮に入れ講義を進める。</li> </ul>
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に講義へ参加し、学んだことを自身の実生活にも反映させて欲しい。</li> <li>・テキストの該当ページを読んで授業に参加すること。</li> </ul>

科目コード	36134	授業科目	精神保健看護実習Ⅱ (Mental Health and Psychiatric Nursing PracticumⅡ)			担当教員	○大川嶺子 藤野裕子 大島泰子	
開講年次	3年次 後期	単位数	2単位	科目分類	専門関連科目	授業形態	実習	
選択必修	必修	時間数	90時間					
履修条件	前提科目	精神保健看護Ⅰ、精神保健看護実習Ⅰ、精神保健看護Ⅱ、精神保健看護演習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	施設で療養している、または在宅で療養している精神障害を持つ人を対象に看護を行い、対象の全人的理解の方法を学び、看護技術を習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神科病院のもつ特殊性を理解し、対象を尊重した関わりができる。</li> <li>2. 対象を生活史や家族背景から理解し、対象の抱える問題とそれらとのつながりについて包括的に捉える事ができる。</li> <li>3. 精神保健上の問題が、対象の身体・行動・対人関係などに与える影響について捉え、記述することができる。</li> <li>4. 対象との関わりにおいて生じる自らの気持ちを吟味しつつ、関わりのプロセスを記録し、考察することにより、対象との関係性の構築について理解ができる。</li> <li>5. 集団（患者・医療従事者）のもつダイナミクスが治療・看護に与える意味に注目しつつ、治療・看護に主体的に参加できる。</li> <li>6. 対象の生活史や家族背景と、対象の抱える問題の包括的理解に基いて対象のニーズを捉え、看護を計画・実践・評価できる。</li> <li>7. 退院に向けての支援、および在宅生活継続のための支援を通して関係職種との連携・調整の実際を体験し、看護の役割を述べることができる。</li> <li>8. 実践したことを振り返り、自己の学習課題を見いだすことができる。</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設で療養している患者の行動の制限や私物・鍵の管理等、精神科病院の特殊性、および特殊な環境下における対象を尊重した看護者の関わりを学ぶ。</li> <li>2. 施設で療養している患者を1名受け持ち(=対象)、看護過程を展開する。</li> <li>3. 対象の生活史や家族背景、既往歴、受診・入院までの経緯、入院中の経過を把握する。</li> <li>4. 対象を身体的・心理的・社会的観点から包括的に捉え、精神保健看護上の問題との関連について理解を深める。</li> <li>5. 看護者と患者の個別の関わりを観察や、種々の活動、集団精神療法への参加から、看護の実際を体験し、看護者の役割を学ぶ。</li> <li>6. 薬物療法の効果と共に、副作用や拒薬による症状の悪化等について観察し、治療における看護者の役割について学ぶ。</li> <li>7. 対象とのコミュニケーション場面を記録したプロセスレコードの検討をとおして、関係性の構築について学ぶ。</li> <li>8. 対象と関係性を構築しつつ情報を収集して看護計画を立案し、実施、評価する。</li> <li>9. 退院調整、訪問看護又はデイケア等に参加し、患者支援における関係職種の連携・調整について学ぶ。</li> <li>10. 日々の実習の振り返り、看護展開、実習総括、最終日のディスカッションを通して、自己の課題を見いだす。</li> </ol>						藤野 大川 大島 仲本 他	

テキスト	3年次後期の「実習の手引き（精神保健看護実習Ⅱ）」
参考文献	精神保健看護Ⅱ、精神保健看護演習に使用したテキストおよび講義資料
他科目との 関連	人間関係論、臨床心理、生涯人間発達論で学んだ知識を活用する。
成績評価の 方法	施設実習指導者・実習指導教員の情報等を参考に、参加状況・実習態度・カンファレンスへの参加状況（20%）、実習記録・レポート等の諸記録（80%）で、科目担当教員が総合的に評価する。
学習相談・ 助言体制	各グループの実習担当教員が随時相談を受け、助言を行う。学生は、積極的に実習に参加し、疑問等がある場合はその都度実習担当教員へ相談する。
授業改善の 特記事項	看護師国家試験の過去問題との関連を伝達する。精神保健看護の専門科目でテキスト内容を補充・説明する資料を配付し、教授する。
備考	実習施設では報告・連絡・相談を密にして、責任を持って行動すること。

科目 コード	37124	授業 科目	地域保健看護 I (Community Health Nursing I)		担当 教員	○川崎道子 長堀智香子		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	15時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	地域保健看護（公衆衛生看護）の概念、歴史、基本理念、活動の場と対象、活動の展開方法と技術等の概要を学び、地域保健看護（公衆衛生看護）の機能と保健師の役割について理解する。また、地域における人々の健康問題の変遷と対策および、生活と健康の関連性を理解し、対象の特性をふまえた看護活動を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域における健康問題の出現過程と地域環境や人々の生活との関連性が理解できる。</li> <li>2. 公衆衛生看護活動の目的と対象、活動展開における基本的な理念が理解できる。</li> <li>3. 公衆衛生看護過程と活動に用いられる方法・技術について理解できる。</li> <li>4. 公衆衛生看護活動の場と保健師の機能について理解できる。</li> </ol>							
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	公衆衛生看護の概念・基本理念				P3-21「沖縄の保健婦たち」のレポート作成 (事後) P78-99	川 崎	講義	
第2回	地域における健康問題と人々の保健行動							
第3回	ヘルスプロモーションと地域診断				P103-122	長 堀		
第4回	公衆衛生看護の歴史							
第5回	公衆衛生看護活動の場と対象、保健師の機能				P22-44	川 崎		
第6回	公衆衛生看護活動の方法と技術							
第7回	沖縄県の保健師活動の現状				P45-57	"		
第8回	地域保健管理と倫理、保健師活動の展望							
					P68-77	"		
					P142-152、P471～	"		
テキスト	インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」を必携とする。							
参考文献	「新版 保健師業務要覧」、その他は開講時に紹介する。							
他科目との 関連	疫学と保健医療情報、人間関係論、生涯人間発達論、看護専門職論 I、ヘルスアセスメント等の既習科目の内容を統合し、公衆衛生及び地域における看護活動の概要を認識して、地域保健看護 II、III、地域保健看護演習への導入とする。							
成績評価の 方法	授業参加状況（10%）、筆記試験（80%）、提出物（10%）で評価する。							
学習相談・ 助言体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の授業で補足説明する。 また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。							
授業改善の 特記事項	公衆衛生看護のアウトラインが理解できるように具体例を用い講義を展開する。							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々、新聞などから地域住民（生活者）の保健行動、健康問題などに関心をよせ、公衆衛生看護の視点で対策を考える。</li> <li>・事前にテキストの該当ページを読み、主体的に授業に参加する。</li> </ul>							

科目 コード	37142	授業 科目	地域保健看護実習I (Community Health Nursing Practicum I)			担当 教員	○長堀智香子 牧内忍 糸数仁美		
開講年次	2年次 前期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	45時間						
履修 条件	前提科目	地域保健看護 I							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに 11 月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要	市町村役場や保健センターを基点として、地域において生活する高齢者・育児中の母親・慢性疾患などの健康課題を持つ人々や地域の人々と交流し、人々の生活の実際と健康との関連性を理解する。また、人々の健康ニーズと地域生活を支えるために必要な支援の実際を知り、地域における対象をとらえる視点および対象の特性をふまえた看護支援の視点を学習する。								
到達目標	<p>下記の実習目標に沿って定められた実習到達目標を別途提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。</li> <li>2. 看護の対象のおかれた状況を分析・統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。</li> <li>3. 看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う。</li> <li>4. 看護専門職者としての保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。</li> <li>5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習態度を養う。</li> </ol>								
日 数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員		
5日間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 週 1 日 (8 時間) で、5 週にわたりグループによる課題実習を行う。</li> <li>2. 市町村役場・保健センター等を窓口として、地域で生活する住民に協力を依頼する。</li> <li>3. 継続的に話し合いや共同活動を行う中で地域住民に関する理解を深める。</li> <li>4. 実習を通して学んだ地域において集団をとらえる視点をコミュニティー・アズ・パートナーモデル等を用いて整理する。</li> <li>5. 地域住民の健康課題を整理し、課題解決の方法を検討する。</li> <li>6. 地域住民の生活に必要な支援を検討する。</li> <li>7. 地域の既存のヘルスケアシステムや活用できる社会資源を把握し、地域住民の支援ニーズと照合して、改善・補充すべき事柄を検討する。</li> <li>8. 実習の結果をまとめ、臨地において報告し、実習担当者および指導教員から助言を得て、理解を深める。</li> <li>9. 学内報告を行い、教員からの助言を受けながら学生間で学びを共有する。</li> </ol> <p>学生は、以上の活動を臨地と大学の両方で深める。 課題によって、専門性のある領域の教員や他機関の助言を得て理解を深める。</p>						長 堀 牧 内 糸 数 他		
テキスト	地域保健看護実習 I 実習の手引き、インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」								
参考文献	医学書院「コミュニティー・アズ・パートナー」、市町村勢要覧、市町村保健福祉計画、福祉保健所概況、衛生統計年報、国民衛生の動向、その他、学生自身が文献検索により収集する。								

他科目との 関連	地域保健看護 I、保健医療情報演習、沖縄の生活と文化の内容を参考にして地域を視る。
成績評価 の方法	事前学習（8%）、実習目標の到達度（52%）、提出物（8%）、実習態度（24%）、参加状況（8%）とする。ただし、実習オリエンテーションへの出席も実習評価に含まれる。また実習の成績は、年度内に実施されるすべての実習が終了した後に確定される。
学生相談・ 助言体制	グループ指導教員が随時相談を受け、助言を行う。研究室前に教員の予定表を掲示して相談しやすいように工夫する。
授業改善の 特記事項	グループ運営は学生が自主的に協力し合って学習することができるように指導する。
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生はグループでの活動に責任を持って参加し、メンバーの役割を誠実に行う。</li> <li>・ 指導教員や実習担当者と十分に連絡を取り、対象地域に出る前に、地域の概要や地域住民の状況をできるだけ把握する。</li> <li>・ 実習中は必要な情報や学習した内容を記録して、毎回振り返りを行う。</li> <li>・ 報告会や報告書作成を通して学んだことを整理する。</li> </ul>



科目 コード	37125	授業 科目	地域保健看護Ⅱ (Community Health NursingⅡ)			担当 教員	○川崎道子 牧内忍 長堀智香子	
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義	
選択必修	必 修	時間数	30時間	分類				
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	地域における個人・家族、集団の健康現象の分析から健康問題を明らかにし、解決のための地域保健看護（公衆衛生看護）活動計画を立案・実施・評価する一連の過程に必要な知識と技術を学習する。また、地域診断等の理念と方法を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康現象の分析から地域の健康問題を明らかにする過程が理解できる。</li> <li>2. 地域診断の意義と診断過程、必要な知識と技術が理解できる。</li> <li>3. ヘルスプロモーションの進め方と使われるモデル、活動に用いるスキル等が理解できる。</li> <li>4. 対象のニーズに合わせた活動計画を策定するプロセスを実施できる。</li> <li>5. 人々の保健ニーズを行政施策につなげるプロセスが理解できる。</li> </ol>							
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	地域診断、地域保健計画策定・評価の意義				P 103-141	牧 内	講義	
第2回	地域アセスメントの方法					長 堀		
第3回	健康問題の分析と保健活動ニーズの明確化					〃		
第4回	〃					〃		
第5回	保健事業の現状（実績）				牧 内			
第6回	地方自治体における地域保健計画策定と予算				〃			
第7回	地域保健活動計画作成				〃			
第8回	〃				〃			
第9回	保健事業計画の策定・評価				〃			
第10回	個別支援（家庭訪問・健康相談）計画				P 189-212	川 崎		
第11回	個別支援（家庭訪問・健康相談）評価				〃	〃		
第12回	集団支援（健康教育・健康診査）計画				P 213-240	牧 内		
第13回	集団支援（健康教育・健康診査）評価				〃	〃		
第14回	自主グループの支援と組織化および評価				P 161-174	川 崎		
第15回	地域ケアコーディネーション・ケアシステム				P 175-186	〃		
テキスト	インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」を必携とする。							
参考文献	「国民衛生の動向」「国民福祉と介護の動向」「展開図でわかる「個」から「地域」へ広がる保健師活動」「見せる公衆衛生看護技術」「生活習慣病予防のためのグループ支援」その他は、開講時に紹介する。							
他科目との 関連	地域保健看護Ⅰ、地域保健看護実習Ⅰの関連科目の他に沖縄の生活と文化、社会学、家族社会学演習、ストレスマネジメントと健康教育、精神保健看護Ⅰ、および生涯発達看護科目のうち既習の科目の内容を統合して学習する。							
成績評価の 方法	授業参加状況（15%）、筆記試験（85%）で評価する。							
学生相談・ 助言体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。また、研究室に教員の予定表を提示し、相談しやすいように配慮する。							
授業改善の 特記事項	地域の健康問題解決に向けた地域保健計画策定過程から保健事業、集団支援、個別支援の流れや関連性を強調する。							
備 考	保健師活動を理解する上でコアとなる科目である。地域保健看護実習Ⅰでのアセスメントの視点、健康問題などを想起し主体的にグループワーク、講義へ参加する。							

科目 コード	37126	授業 科目	地域保健看護Ⅲ (Community Health Nursing Ⅲ)			担当 教員	○牧内忍 川崎道子 長堀智香子 糸数仁美 未定 (非常勤)		
開講年次	3年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	地域にネットワークを構築する過程、地域保健・学校保健・産業保健の場で展開されているヘルスケアシステムについて学習する。また、地域における健康危機管理、災害時地域管理を含めた地域保健看護（公衆衛生看護）管理について学習する。								
到達目標	1. 地域において展開されている種々のヘルスケアシステムについて理解できる。 2. 地域における地域保健看護管理の体制と機能について理解できる。 3. 学校保健・産業保健の場で展開されているヘルスケアのシステムについて理解できる。								
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態		
第1回	地域保健におけるヘルスケアシステム				P178-184	川 崎	講 義		
第2回	母子保健対策（障害・歯科含む）とヘルスケアシステム				P252-271 P395-402	川 崎			
第3回	障害者対策（身体・知的・精神）とヘルスケアシステム				P327-343	牧 内			
第4回	成人保健対策と（歯科含む）ヘルスケアシステム				P272-291	〃			
第5回	成人保健対策（特定健康診査・特定保健指導）				〃	〃			
第6回	高齢者対策とヘルスケアシステム				P292-313	糸 数			
第7回	感染症対策とヘルスケアシステム				P363-394	長 堀			
第8回	難病（小児慢性特定疾患含む）対策とヘルスケアシステム				P314-326	〃			
第9回	健康危機管理				P142-159	川 崎			
第10回	地域保健看護における災害時看護管理				P403-414	〃			
第11回	学校保健看護活動-1（学校保健の概要）				P417-432	〃			
第12回	〃 -2（養護教諭の職務の実際）				〃	非常勤			
第13回	産業保健看護活動-1（産業保健の概要）				P433-451	牧 内			
第14回	〃 -2（産業保健看護の5管理）				〃	〃			
第15回	〃 -3（産業保健看護活動の実際）				〃	非常勤			
テキスト	インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」、日本看護協会出版会「看護法令要覧」、厚生統計協会「国民衛生の動向」を必携とする。								
参考文献	「国民衛生の動向」「看護法令要覧」「保健師業務要覧」「新版・養護教諭執務の手引き 第8版」「学校保健マニュアル」「産業保健マニュアル」等 その他は、開講時に紹介する。								
他科目との関連	「保健医療福祉制度」の法律などと「地域保健看護Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を関連づけて学習する。								
成績評価の方法	授業参加状況（15%）、筆記試験（85%）で評価する。								
学生相談・助言体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。								
授業改善の特記事項	授業内容を具体的にイメージできるよう図表を多く用いる。また、関連する資料を配付し内容を補充する。授業内容と保健師国家試験問題の関連を解説する。								
備考	幅広い保健師活動を分野毎の具体的なシステム（一連の保健事業）を通して学ぶ。								

科目コード	37127	授業科目	地域保健看護演習 (Community Health and Nursing Seminar)			担当 教員	○川崎道子 牧内忍 長堀智香子 糸数仁美	
開講年次	4年次 前期	単位数	1単位	科目	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間	分類				
履修条件	前提科目	地域保健看護実習Ⅰ、生活援助・療養援助技術実習、地域保健看護Ⅱ、地域保健看護Ⅲ						
	その他	なし						
授業概要	学生相互のグループワークやロールプレイによって、家庭訪問、健康相談、健康教育、健康診査等の場における地域保健看護（公衆衛生看護）活動に必要な支援技術と活動の展開方法を具体的に学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康問題に対する個別支援(家庭訪問、健康相談)の計画・展開・評価について理解できる。</li> <li>2. 健康問題に対する集団支援(健康教育、健康診査)の計画・展開・評価について理解できる。</li> <li>3. 家庭訪問計画作成および健康教育指導案作成の準備を自主的に行うことができる。</li> </ol>							
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回	個人・家族のアセスメントツール 個人・家族支援の看護過程および家族保健指導 (アセスメント～実施計画立案) 個人・家族支援の看護過程 演習 " 発表 保健指導・健康相談の目的、方法、保健指導 " 演習 家庭訪問の目的、方法、保健指導 家庭訪問 演習 家庭訪問ロールプレイ (前半グループ発表) " (後半グループ発表) 健康教育の目的、方法、評価、指導計画、媒体 健康教育指導案作成 演習1 " 演習2 健康教育発表 (全グループ) 健康診査の目的、方法、保健指導 期末試験・OSCE試験の告示				P 241-251    P 199-212  P 187-198   P 213-223 実習地域の地 域アセスメン ト作成 (事前) P 224-240	川 崎 牧 内 長 堀 糸 数	演習	
テキスト	インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」を必携とする。							
参考文献	「国民衛生の動向」「看護法令要覧」「保健師業務要覧」「家族看護学」 「行動変容のための面接レッスン」「健康教育プログラム実践マニュアル」「保健師記録」 その他は、開講時に紹介する。							
他科目との 関連	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ、地域保健看護実習Ⅰの関連科目の他に、心理学、日本語表現法、保健医療福祉制度、家族社会学演習、人間関係論、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ、および生涯発達看護科目のうち既習科目の内容を総合して学習する。							
成績評価の 方法	授業参加状況（10%）、期末試験（筆記試験）（50%）およびOSCE試験（40%）で評価する。							
学習相談・ 助言体制	出席票に講義内容の疑問点などの記載をもとめ、次回の講義で補足説明する。 また、研究室に教員の予定表を掲示し、相談しやすいように配慮する。							
授業改善の 特記事項	講義内容が地域保健看護実習Ⅱで活用できるように、地域特性のある事例を用いて講義・演習を展開する。							
備 考	地域保健看護実習Ⅱの実習項目を個人・グループで演習する。生活者として対象（地域住民）を理解し、効果的に保健指導技術が提供できるよう主体的に学習する。あわせて、実習地域の地域アセスメントを作成し健康教育指導案作成へ活かす。							

科目 コード	37143	授業 科目	地域保健看護実習Ⅱ (Community Health Nursing PracticumⅡ)			担当 教員	○牧内忍 川崎道子 長堀智香子 糸数仁美		
開講年次	4年次 後期	単位数	3単位	科目	専門関連科目	授業 形態	実 習		
選択必修	必 修	時間数	135時間	分類					
履 修 条 件	前提科目	地域保健看護演習							
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。							
授業概要		県または市町村における地域保健の機能と体制、保健師の役割と活動の展開方法、保健指導技術等について、見学や体験を通して学習する。また、広い視野に立つ地域保健看護活動の実際を理解するために、実習地域の特性や人々の健康に対する考え方や行動と地域の健康問題との関連、近隣関係や保健行政とのかかわりを学習する。							
到達目標		<p>下記の実習目標に沿って定められた実習到達目標を別途提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。</li> <li>2. 看護の対象のおかれた状況を分析・統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。</li> <li>3. 看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う。</li> <li>4. 看護専門職者としての保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。</li> <li>5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習態度を養う。</li> </ol>							
日 数	授 業 内 容 及 び 計 画						指 導 教 員		
	<p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設ごとのグループで、既存資料の検討や地区踏査を行い、実習地域の特性、健康問題等を把握する。</li> <li>・地域保健看護演習において、健康教育の企画を行い、指導案を作成する。</li> <li>・実習施設の保健事業予定表をもとに、実習計画を作成する。</li> </ul> <p>※指導教員は、体験することが望ましい事業等を考慮して、施設側の実習担当者として計画の調整を行う。</p> <p>実施</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習初日に、保健所における、広域的、専門的かつ技術的な保健活動について学ぶ。(ただし、那覇市保健所は初日に限らない)</li> <li>2. 実習開始2-3日目に、実習施設の組織、機能、保健事業、地域特性と健康問題等に関するオリエンテーションを受ける。</li> <li>3. 実習中は必要に応じ実習計画を調整・修正する。</li> <li>4. 学生は主体的にカンファレンスを行い、実習内容の理解、共有に努める。</li> <li>5. 学生はグループ内で、リーダー等の役割を決め、実習担当者や指導教員との連絡調整や報告を行い、実習の円滑な進行を図る。</li> <li>6. 実習施設での最終日には、担当保健師、指導教員の参加のもと臨地での報告会を行い実習の総括を行う。</li> <li>7. 実習期間の最終日は、学内でテーマ毎に実習のまとめ、報告会を行い、到達目標に対して学習を深める。</li> </ol>						牧 内 川 崎 長 堀 糸 数		
テキスト	地域保健看護実習Ⅱ 実習の手引き、インターメディカル「公衆衛生看護学.jp」								
参考文献	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび地域保健看護演習で使用したテキストおよび参考書								
他科目との 関連	地域保健看護Ⅰ・Ⅱ・Ⅲおよび地域保健看護演習との関連科目を統合して実習を行う。								
成績評価の 方法	事前学習(8%)、実習目標の到達度(52%)、提出物(8%)、実習態度(24%)、参加状況(8%)とする。ただし、実習オリエンテーションも実習評価に含まれる。								

学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設毎の指導教員が演習終了後も随時相談を受け、助言を行う。</li> <li>・実習中は、原則として1日～2日に1回巡回指導を行うが、到達目標が到達できてない場合などは複数の指導教員で頻回指導を行う。</li> </ul>
授業改善の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生がグループごとに自主的に協力し合って実習することができるように指導する。</li> <li>・講義の知識（理論）と実際の実習展開とを関連づけて学生を指導する。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習地域の健康問題と保健事業（個別支援、集団支援など）とを関連づけて実習を行う。</li> <li>・経験する事業等について予習し、主体的な態度で実習に臨む。</li> <li>・指導教員や実習担当保健師と十分に連絡をとり、実習計画の立案、健康教育指導案の作成を行う。また、報告・連絡・相談をタイムリーに行う。</li> </ul>

科目 コード	37150	授業 科目	在宅保健看護実習 (Home Health Nursing Practicum)			担当 教員	○大湾明美 他	
	4年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	45時間					
履修 条件	前提科目	地域保健看護実習Ⅰ 生活援助・療養援助技術実習 精神保健看護実習Ⅱ 小児保健看護実習Ⅱ 周産期保健看護実習Ⅱ 成人保健看護実習Ⅱ 老年保健看護実習Ⅱ クリティカルケア・緩和ケア実習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	生活機能障害を持ち、在宅で生活している対象者の健康問題を家族を含めて総合的に理解し、具体的な支援技術を学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象のQOLを向上させるための生活ニーズおよび家族の生活ニーズについて、生活の個別性・連続性・地域性を含めて、総合的にアセスメントできる</li> <li>2. 対象の在宅生活を支えている社会資源と協働連携して、健康問題の解決のための実施ができる</li> <li>3. 対象のQOLの向上に生かせる新たな社会資源を見いだすことができる</li> <li>4. これまで学習した施設ケアと在宅ケアを継続させるための看護職者の役割について述べることができる</li> <li>5. ケアを受けながら自分らしい生活の継続性とは何かについて、述べることができる</li> </ol>							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活機能障害を持ち、訪問看護等を受けている対象（小児～高齢者）を担当事例として1事例を受け持つ。</li> <li>2) 対象への看護過程（アセスメント、計画、実施、評価）を展開する。</li> <li>3) 対象以外の訪問看護にも同行し（2-3件/日）、担当事例の看護計画に役立てると同時に、訪問看護師の役割機能及び在宅と施設の相違について学習する。</li> <li>4) 訪問看護ステーション等を拠点に、対象者の自宅や利用施設への訪問、及び居宅介護支援事業所や訪問系・通所系サービス等でのケアに参加しながら情報収集を行い、総合的にアセスメントする。</li> <li>5) 対象と家族を支えている社会資源（インフォーマル及びフォーマルサポート）について把握する。</li> <li>6) 立案した看護計画の中から、学生として実施可能な課題を選択し、実習指導者または担当教員の指導の下で実施する。</li> <li>7) 毎日のカンファレンス、4日目の合同カンファレンス（実習指導者含む）、5日目の報告会（学内）で、学びを共有する。</li> <li>8) 最終的に、看護過程の実習記録、課題レポートを提出する。</li> </ol> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生と対象のマッチングを行う。実習前に対象予定者の情報と、学生の既習した実習内容や担当したい対象の情報を踏まえた上でマッチングを行う。</li> <li>2) 対象の状況に応じて、自宅以外での展開も行う。自宅以外で対象が行き来している友人宅や地域のサロンや公民館、公共機関等への同行や、自宅がある地区の踏査を行い、活用可能な社会資源を見いだす。</li> <li>3) 実習3日目に実習指導者と教員を交えて事例検討を行い、援助の方針や計画について修正する。</li> <li>4) 計画・実施した中で対象のQOLを向上させるために今後も必要なケア（学生が見いだしたケア、新たな社会資源の発掘等）について、関係者（家族、友人・知人、専門職者等）に引き継ぐ。</li> </ol>						大 湾 他	

テキスト	在宅看護論，南江堂，2012.
参考文献	別途指示する
他科目との 関連	地域保健看護実習Ⅰ、生活援助・療養援助技術演習、精神保健看護実習Ⅱ、小児保健看護実習Ⅱ、周産期保健看護実習Ⅱ、成人保健看護実習Ⅱ、老年保健看護実習Ⅱ、クリティカルケア・緩和ケア実習の既習科目を前提とし、在宅で生活している対象者の課題解決の実際を学ぶ。
成績評価の 方法	実習の評価は、別途定める実習評価基準に準ずる。
学習相談・ 助言体制	実習中は毎日開始前と終了時にカンファレンスを実施し、学びの内容や互いの課題を共有し、教員、学生で解決に取り組む。
授業改善の 特記事項	実習中は実習の手引きやテキストを携帯し、理論と実践を行き来できるように促す。
備考	実習施設：訪問看護ステーション、病院（訪問看護）、小児発達センター等